

南アルプスの奥深い百名山を訪ねる 光岳

実施日	2015年8月22日(土)～24日(月)		
天候	8/22	曇り時々晴れ	
	8/23	曇り時々晴れ	
	8/24	朝霧と曇り後晴れ	
リーダー	石原 勝正		
参加者	若村勝昭、石附智江、中村友子、石原勝正、宇野輝代、石附恵理子 計6名		
	費用	交通費	5,000円
	テント場(便ヶ島)	500円	光岳小屋(素泊り)3,000円
		合計	8,500円
タイム	8/22	高尾駅南口(9:00)～便ヶ島(16:00)～テント場(前泊)	
	8/23	易老渡(5:30～7:20)面平(7:40～8:30)平らな広場(8:55～10:25)2254 [㍻] 地点(10:35～11:00)易老岳(12:00～12:40)三吉平(12:55～13:50)静高平水場(14:05～14:25)光岳小屋⇄光岳山頂(泊)	
	8/24	光岳小屋(5:30～6:30)三吉平(6:35～7:30)易老岳(7:35～7:45)2254 [㍻] 地点(7:50～8:55)平らな広場(9:10～9:55)面平(10:35～11:55)易老渡	

当初の登山計画は、8月23日(日)から易老渡～光岳～聖岳～易老渡の縦走コースを4泊5日(便ヶ島前泊を含む)で歩く長丁場のコースであった。

ところが週の始めからダブル台風(15号と16号)が縦走期間中日本列島を覗う情勢となったため、台風の影響を警戒し出発日を1日早めて2泊3日の易老渡～光岳往復コースに変更した山行計画にな

っています。

参加者6人高尾駅南口に集合しマイカー2台に分乗し午前9時に中央道経由で出発し松川インター直前の駒ヶ岳SAで昼食と休憩。岐阜高山市出身の宇野会員から飛騨高山地方の手作りの郷土料理「棒葉寿司」を全員ご馳走になって大満足とともにいつもながらの心遣いに感謝! 松川インターから国道152号線から落石危険と表示のある南アルプス登山口用林道経由で便ヶ島聖光小屋(休業中)側にあるテント場に到着。



テント場は県営で森林公園のキャンプ場のように整備されており、管理人の許可もあり屋根付きの休憩場所にテントを張り、ビールで乾杯、早めの夕食をとり溪流の音と秋の虫の声を聴きながら午後7時30分就寝。

8 / 2 3 易老渡～光岳小屋

朝4時起床。朝食後テントを撤収して車で便ヶ島から易老渡の登山口駐車場に移動。駐車場は満車のため林道の脇に駐車して遠山川にかかる登山口の吊り橋を渡る。今日は易老渡の登山口から易老岳まで1500mの標高差を一気に登り、その後易老岳から稜線上を歩いて光岳小屋まで行くルートである。前半の易老岳までは登りが6時間一方的に



続くと考えられ、かなり厳しそうである。登山道はいきなりジグザクの急登から始まり所々急斜面にあるザレ場を慎重に通過し易老岳へ続く尾根に上がる。

鬱蒼とした落葉樹林帯の中を2時間ほどひたすら登ると大木の樹林に囲まれた緩やかで鍋の底のような面平に到着し



アンカーのW氏を待ち休憩タイムをとる。

面平を出発して暫く進むと再び尾根道の急登となり50分ほどのアルバイトを強いられて明るい小さな広場（標識はないが山と高原の地図に平らな広場と表示）で休みをとり疲れた体を癒す。そこから登りが再開し倒木地帯と狭い尾根、易老岳直前の標高2,254mのピークに到達する。

その後滑落注意、CAUTIONと表示のある岩場のトラバースを慎重に下って最後の登りを頑張ってようやく易老岳だ。



途中かなりの休憩をとってゆっくりと登ってきたにも拘わらず易老渡の吊り橋を渡ってから5時間半ほどでたどり着くことができた。登山口のコースタイム6時間の表示はかなり余裕を見たタイムに違いない。易老岳の頂上は樹林に囲まれて展望がなく、ピークとは言えないような小さな広場で聖岳の稜線に続く茶臼岳

ヘルートと光岳への分岐となっている。昼食を含めてたっぷり1時間ほどの休憩をとった後、光岳に向かう稜線ルートへ向かう。

樹林帯の中をアップダウンのある稜線を下ると湿地帯のような広場の樹木に三吉平という表示版が掛かっている。三吉平を過ぎて高山植物の原っぱとぬかるみの道を進むと時々林が開けるが霧のため相変わらず左右の展望はない。

光岳への登り返しになると歩き難いゴロゴロした石の谷筋に入る。ハクサンフウロやキリンソウなどの高山植物も見られるようになるがコバイケイソウは既に開花期を過ぎて黒く枯れ始めており一面のお花畑とは言い難い。谷筋のゴロゴロ石の登りが延々と続き疲労困憊に達するころ紫の花を咲かせたトリカブトの群生地に入り、ようやく静高平の水場に到達し休憩をとる。

この周辺の高山植物は鹿に食べられてしまい、鹿が嫌いなトリカブト類の高山植物ばかりになってしまったとのことである。また、此処の水場が利用できる

ときは小屋で水をお分けできませんと注意標識板があるので、小屋での自炊用の水



と今夜の飲料水をここで補給しなければならぬ。水場を越えると木道があるコケ類の広がった平原（センジヶ原）となり周りはハイマツに囲まれた地帯となり、暫く進むと光岳小屋が目の前に現れる。

小屋で部屋割りを済ませて明日の天気

予報は雨という管理人の勧めにより標高2,591mの光岳山頂に向かう。



道標に沿って森の中を20分ほど歩くと光岳山頂である。

山頂は樹林の中で展望がない。寸又峡など南アルプス深南部に続く稜線の少し先に岩が突き出した展望場所があり石灰岩の光石（てかりいし）を見ることができるが曇天と霧で周りの南アルプスの山々の視界は開けない。更に先に進み稜線分岐から急降下すると光石である。

光石に岩塊に上り少し遊んだ後小屋に戻る。県営の山小屋は木の香が漂うようで新しく建て替えられたように見えるだけでなく管理人夫婦も親切である。バイオトイレも立派で新しく清潔で利用しやすい。



また、今日は宿泊する登山者も少なくゆったりと寝場所も確保でき夕食の後7時半消灯。

8 / 24 光岳小屋～易老渡

朝4時起床。夜は雨が降っていたようだが朝は霧で視界は効かないが雨は止んだようである。今日は昨日のルートを下山する予定である。朝食を済ませた後雨具とザックカバーを装着して5時半に小屋を出発。小屋を出てセンジヶ原まで下ると標高2,540mのイザルヶ岳への分岐があるが視界がないため寄らずに進む。静高平の水場で今日の飲料水を補給して

ゴーロ石の沢筋を下る。稜線上の道は樹林帯に入りぬかるみの登山道を下る。

三吉平を經由して緩やかな登り返しとなり7時半頃に易老岳に着く。

三角点のある易老岳頂上



の小さな広場で休憩をとった後、再び狭い尾根の岩場トラバースルートを慎重に通過し平らな広場を經由して午前10時頃に鍋底のような斜面の面平に到着。

下山ルートは時間的に余裕があるので面平でお湯を沸かしてお茶やコーヒーなどのティータイムを楽しみ40分ほどの休憩をとる。天気は霧と曇天から晴れへと回復しつつあり、樹林の間からときおり日が差し込み、気温も汗ばむほど上がってくる。

後はひたすら易老渡へのルートを下り午前11時50分に易老渡の吊り橋を渡って駐車場に到着。帰路は遠山郷の公営温泉施設「かぐらの湯」に立ち寄り各々豪華な昼食をとって、温泉で2日間の汗を流した後帰路に着いた。中央道経由も大きな渋滞もなく高尾駅南口に午後8時頃到着して今回の山行チームを解散した。今回の山行は台風情報の中雨に降られることもなく天候に恵まれ、整備されたテント場による前泊、清潔な山小屋での宿泊、帰路の温泉施設での食事と入浴と全員無事下山等すべて順調に進めることができました。リーダーとして参加者皆様のご協力に感謝が尽きません。ありがとうございました。

(記&写真・石原 勝正)